

神戸大学大学院経営学研究科 Ph.D. コースガイダンス (前期課程・後期課程)

2022年4月

副研究科長・大学院教務委員
内田 浩史

はじめに

- 経営学研究科の専攻構成と教育目標
- 前期課程の教育体系(カリキュラム、修士号)
- 後期課程の教育体系(進学条件、学力試験、博士候補者資格論文、博士論文)
- 研究者への道
- その他事務手続き事項(各種申請、指導教員申請・決定)

説明関連資料

ガイダンス内で説明補助として学生便覧のページ数を記載しています。

学生便覧は昨年度からウェブページ閲覧のみとしています。

下記アドレスからご確認ください。

<https://b.kobe-u.ac.jp/eaffairs/handbook/>

なお、

博士前期課程(マスター)入学者は2022年度、

博士後期課程(ドクター)入進学者は2020年度、

が対象となりますのでご注意ください。

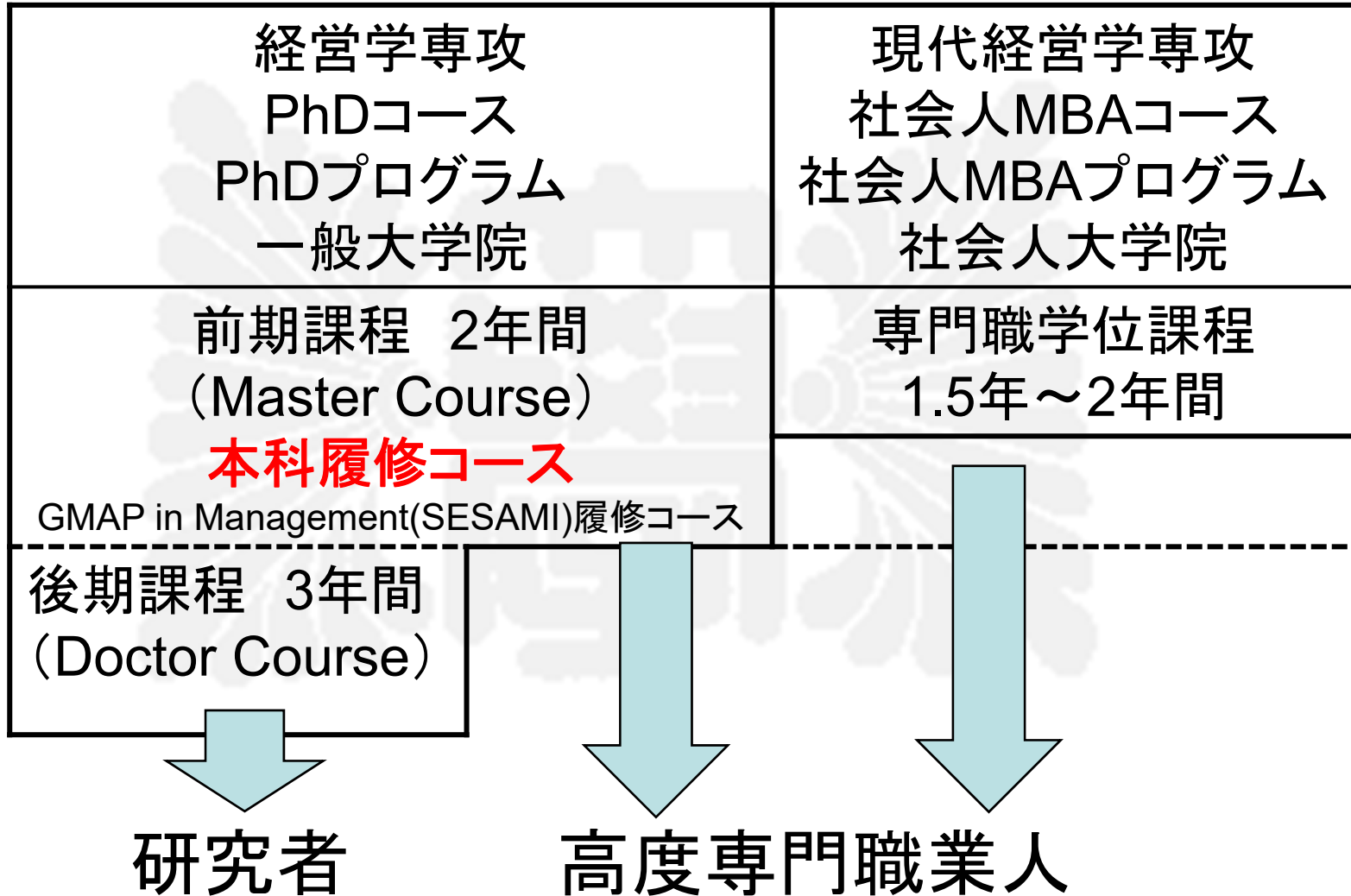
令和4(2022)年度前期の授業の 実施方法について

感染防止対策を徹底したうえで、対面で授業を実施します。
(2022年3月30日現在)

大学院の授業も対面となります。ただし、例外的に遠隔対応となるものもありますので、授業シラバス・BEEF・経営学研究科ホームページを確認してください。

なお、新型コロナウイルスの感染状況、履修登録者数、海外の履修者の有無等によって授業の実施方法は、変更になる可能性があります。随時情報を更新しますので、経営学研究科ホームページから「在学生へのお知らせ」を確認してください。

経営学研究科の構成



本科コースとGMAPコース

- 本科履修コース
 - 皆さんの入学されるコース(これから説明します)
- GMAP in Management(SESAMi)プログラム履修コース(旧SESAMi履修コース)
 - 海外提携大学研究者との共同で、すべて英語で授業がなされる一般とは別体系のコース
 - 本科履修コースの人も履修可(許可必要)

(『2022年度便覧』 210頁～／『2020年度便覧』 217頁～
および[GMAPのホームページ](#)、掲示等を参照)

PhDコースの教育目標

- 広義の経営学ならびに関連する基礎的な学問分野の理論についての**高度な専門知識**
- 経営学の特定分野のさらに**深い専門知識**
- **独創的な研究**を行うことができる人材

(『2022年度便覧』『2020年度便覧』 8頁)

前期課程の教育目標

- ・広義の経営学（経営学・会計学・商学）ならびに関連する基礎的学問分野の高度な専門知識（⇒第1群、第3群科目）
- ・特定の専攻分野において、新たな科学的知見を生み出す科学的方法論（⇒第2群科目）

⇒大学、研究機関及び産業界で当該分野の発展に寄与する人材を養成する

第1群：経営学の基礎科目

「〇〇特論」科目(9科目)4単位以上

- 経営学分野
経営管理特論、経営制度特論、決定分析特論
- 会計学分野
財務会計特論、会計制度特論、管理会計特論
- 商学専攻
マーケティング特論、ファイナンス特論、
市場経済分析特論

第2群：方法論科目

研究方法論の科目：自分が採用する予定の方法論科目を修得する。2単位以上。

- 数学的方法論研究
- 統計的方法論研究
- 定性的方法論研究

第3群：補完と応用

- 「〇〇特殊研究」：2単位以上
 - 第1群「特論」科目、第2群「方法論」科目の補完的な科目と特殊な領域についての応用科目
→修士論文の方向性を考えながら履修する
(『2022年度便覧』191頁『2020年度便覧』198頁)
- なお、GMAP in Management(SESAMi)履修コースの科目を取得した場合は、第3群としてカウントする。

履修細則別表A注1

(『2022年度便覧』198頁『2020年度便覧』205頁)

第5群：学部科目

経営学の知識が不足していると思われる場合に、学部開講科目を大学院の科目として履修することができる。

ただし、修了に必要な単位に組み込まれるのは4単位まで、かつ、第8群科目と合わせて6単位まで。

履修細則別表A注5

(『2021年度便覧』198頁『2020年度便覧』205頁)

第8群：専門職科目

ビジネスの現場に直結した実践的知識の応用科目で、専門職学位課程向けに開講

ケースプロジェクト研究、テーマプロジェクト研究および現代経営学演習を除いて6単位を上限として第3群科目の単位数に含める。

履修細則別表A注2（『2022年度便覧』198頁『2020年度便覧』205頁）

ただし、修了に必要な単位に組み込まれるのは、第5群科目と合わせて6単位まで。

履修細則別表A注5（『2021年度便覧』198頁『2020年度便覧』205頁）

前期課程の教育体系

授業科目の授業 (コースワーク)

- 第1群(4単位以上)
- 第2群(2単位以上)
- 第3群(2単位以上)
- 合計18単位以上
(第5群、第8群を含める)

指導教員の承認を得ること。

研究指導 (演習)

- 第6群(12単位)
- 研究指導教員の指導のもとで修士論文を執筆する。

(『2022年度便覧』198頁)
(『2020年度便覧』205頁)

履修プランの作成

『履修要綱』の「大学院博士課程の基礎的科目の体系と履修計画について」(7～19頁)をよく読む。

履修要綱(大学院生用):経営学研究科ウェブページに掲載

https://www.b.kobe-u.ac.jp/phd_files/risyuyoukou_md_2022.pdf

履修にあたっては、研究指導教員とよく相談する。

演習(ゼミ)

- 大学院生は1人の研究指導教員を選び、その教授(あるいは准教授)の研究室に所属する。
- 研究室単位(研究指導教員単位)で演習(ゼミ)が開講され、そこで論文(修士論文、博士候補者資格論文および博士論文)指導が行われる。
- 演習(ゼミ)は、通常その研究室に所属する大学院生の全メンバーが参加する。

修士論文の執筆

- 論文題目の提出 (M2の10月)
- 修士論文の提出 (1月)
- 修士論文審査 (主査1名、副査2名) (2月)

- 2年で提出できなかった場合
 次の年の6月に提出し、合格すれば9月に
 修了することが可

前期課程修了・修士号

・単位の履修

科目：9科目18単位以上

演習：12単位

+

・修士論文の合格

題目申請→論文提出

→3名の審査委員による、論文審査＋最終試験（口頭試問）

研究科規則25条（『2022年度便覧』186頁）

履修細則3条（『2022年度便覧』196頁）

博士課程後期課程への進学

条件1: 前期課程修了

条件2: 修士論文の「後期進学合格」

- ・修士論文審査時に判定

[基準]前期課程修了者が身につけているべき研究能力の水準を示しているだけでなく、博士号取得者となりうる能力を示すこと

条件3: 総合学力試験合格

- ・第1群1科目、第2群1科目合格

[基準]科目の内容を理解しているだけでなく、経営学研究者としてそれを使いこなす能力となっていること

総合学力試験

- 後期課程への**進学**、博士論文**提出**のための基礎的な学力の判定のための試験
- 試験科目は、第1群科目、第2群科目と同じ
- 年2回(8月と2月に実施)
- 後期課程への**進学要件**(1群科目1科目、2群科目1科目以上をM2の8月の試験までで合格しておく)
- 博士論文**提出要件**(1群科目2科目、2群科目1科目、博士候補者資格論文をD3の8月の試験までに合格しておく)

後期課程の教育目標

- ・経営学・会計学・商学の特定の専攻分野において深い**専門知識に精通し、独創的研究**を行う人材を養成
- ・大学や研究機関等において当該分野の**高度な研究・教育に従事し、その発展に主導的役割**
- ・成果を世界に及ぼし**人類の進歩と発展に寄与**

研究科規則2条の2第2項(2)

(『2022年度便覧』180頁 『2020年度便覧』188頁)

後期課程の教育体系

- 授業(第4群) **必修**

D1またはD2: 論文作成セミナー(1単位)

D2またはD3: 博士候補者ワークショップ(1単位)

- 研究指導 **必修**

研究指導教員が実施する演習(ゼミ)8単位を修得しなければならない。

- その他

希望者は講義科目を聴講、単位修得することができる。

いずれも研究指導教員の承認を得ること。

論文作成セミナー

- 時期: 6月18日・25日、10月31日・11月5日
- 必修科目。
- 成績評価: 博士候補者ワークショップで少なくとも6本の報告に出席し、その中から2本の報告に関するレポートを提出。

博士候補者ワークショップ

- 時期: 6月18日・25日、10月31日・11月5日
- 博士候補者資格論文審査に合格した者は原則として、直近の博士候補者ワークショップで報告をする。
- 成績評価
 - 報告をしないと必修単位が取得できない
 - 良い博士論文につなげるために様々な教員や院生からの意見を聴く機会

博士課程修了・博士号

・博士候補者資格論文試験

博士論文に向けての研究の経過をみる論文。
研究能力の審査。**査読付論文で代替可能**



・論文指導委員会（指導教員＋教員2名）を編成



・博士論文試験

題目申請→ 3名の審査委員による仮審査
→ 3名の審査委員による論文審査＋最終試験（口頭試問）
[前提] 演習履修＋総合学力試験の第1群2科目、
第2群1科目の合格＋博士候補者資格論文合格

博士候補者資格論文の代替

- 査読付論文の提出要件
 - 研究指導教員の承認
 - 査読雑誌に掲載されたか掲載が決定していること
 - 博士論文の専門分野に該当すること
 - 共著の場合は、主たる著者であることを他の共著者から認められていること
- 申請手続
 - 4月または10月の博士候補者資格論文の題目提出は不要
 - 論文提出時期は、博士候補者資格論文の提出と同一
 - 研究指導教員の許可を得た所定の申請書に必要書類を添付して提出すること

その他の研究を学ぶ場

- **他の教員に研究指導してもらう**
 - 論文指導委員会(博士候補者資格論文試験合格後)
指導教員以外のゼミに参加(指導教員に相談)
博士候補者ワークショップ
- **研究会・学会**
 - 他の研究者がどのように研究成果を出したかを学ぶ
各専門分野の学会(加入については指導教員と相談を)
- **博士論文発表会**
 - 他の院生がどのように研究成果を出したかを学ぶ

博士への道

	授 業	総合学力試験	博士候補者資格論文	修士論文	博士論文
M1	第1群～ 第8群 計30単位以 上	M2の8月までに 第1群1科目 第2群1科目			
M2				10月論題提出 1月提出 2月審査・試験	
D1	4～12月 論文作成セ ミナー	D3の8月 までに 第1群 2科目 第2群 1科目			
D2	4～12月 博士候補者 ワークショップ		10・4月論題 1月・6月提出 2月または 7月審査		
D3			D3の6月 提出まで 可能		10月論題提出 12月発表会・ 仮審査 1月提出 2月審査・試験

研究資金の獲得

研究には、

- 調査
- 学会発表(海外、国内)
- 英文校正

等々のために資金が必要

→ 競争的研究資金に応募して、研究する

後期課程進学者に対する研究支援

- 日本学術振興会特別研究員
- 神戸大学博士フェローシップ制度
- 日本学生支援機構の奨学金の返還免除内定制度
 - 博士後期課程入学時に、貸与終了時に決定する業績優秀者の返還免除を内定する制度
- その他(適宜情報提供します)

日本学術振興会特別研究員

「特別研究員」制度は優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的として、大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度（現在は月額20万円＋研究費（審査有）、2～3年）

参考) <https://www.jsps.go.jp/j-pd>

神戸大学博士学生フェローシップ制度

本学の博士課程後期課程に在籍する学生で、イノベーション創出が期待される分野で、活躍が期待される優秀な学生に博士学生フェローの称号を与える。また、当該学生に**研究専念支援金**(180万円/年)および**研究費**(30万円/年)を支給すると共に、研究力向上のための機会を与え、さらに、キャリアパス支援を行う。

参考) <http://www.career.kobe-u.ac.jp/mdp.html>

大学教員になるには

- 公募形式が主流
 - 1つのポジションに全国の博士号取得者が応募
 - あなたが生み出した研究成果(学会発表論文)で競争する
- 教育歴を重視する大学も増加
 - TA(teaching assistant)、STA(senior teaching assistant)、RA(research assistant)
- 自分の研究を端的にわかりやすく伝える訓練
- ハゲタカジャーナルやハゲタカ学会には注意

研究倫理を遵守すること

- 大学院生も、研究活動を行うときには、「研究者」とみなされます。
- 「研究者」は「研究不正行為」を行ってはいけません。
 - 剽窃、捏造、改ざん、盗用など
- 授業や学位論文において研究不正行為が行われれば（指導教員にはすぐ分かります）、単位取り消しや学位取消等の重い処分の対象となります。
- 海賊版のソフトウェアを利用してはいけません。

参考) <https://www.kobe-u.ac.jp/research/system/academic-norms/index.html>

研究倫理を遵守すること(再)

- 経営学研究科「レポート・論文作成時における剽窃防止ガイドライン」を熟読してください
 - インターネットや情報技術の進展は、文献・資料へのアクセスを容易にした反面、悪用した剽窃を生み出しています
 - 学位論文(博士論文, 修士論文, 卒業論文), 定期試験・到達度確認、レポート等における盗用等
 - 本研究科・経営学部でも学生が重い処分を受けています
- 指導教員と頻繁にコンタクトを取り、適切な指導を受けてください
 - 論文提出期限ギリギリに作成・提出しても、受理されません
 - 論文作成には時間がかかります(数週間、1, 2か月でできるものではありません)

教務事務手續

教務グループ

履修、試験、学位等の教務手続を行う重要な係

- ・手続忘れ、期限遅れがないように
- ・分からないことは聞くこと
 - ⇒ **その前に学生便覧、履修要綱は熟読を**
- ・意思疎通ができる連絡手段を常備すること

教務上の連絡の方法

基本＝電子媒体での通知

経営学研究科ウェブページ・メールをよく見ること

[重要]＝学籍番号メール

(22XbXXXb@stu.kobe-u.ac.jp)

→必ず常用メールへの転送設定をする

補助＝公用掲示板(第3学舎通路)

使用例: 周知ポスターの掲示等

教務上の申請の方法

[1] 教務グループで申請する(メールによる申請)

[2] 申請項目によってはインターネット申請

- 履修登録(登録方法は「教務情報システム利用の手引き(学生用)」を参照)
- 総合学力試験(登録方法は別途通知)
- 修士論文題目、博士候補者資格論文題目、博士論文題目(登録方法は別途通知)
- 修士論文、博士候補者資格論文、博士論文の提出(登録方法は別途通知)

[重要]必ず、指導教員の指導・承認を得て
登録すること

教務関連システム

[1] うりぼーネット (<https://kym-web.ofc.kobe-u.ac.jp/campusweb>) = 教務システム

授業履修, 履修の取り消しの手続き

[2] BEEF (<https://beef.center.kobe-u.ac.jp/>)

= 学修支援システム

履修する授業資料のダウンロード, レポートの提出, 授業の質疑応答, など授業の実施に関わるリソースの集約

[3] 経営学研究科メンバーサイト

総合学力試験, 論題の申請, 論文提出

指導教員の申請・決定

ステップ1: 希望する指導教員のゼミ・ゼミ説明会出席
分からないことを、教員に直接確認する

ゼミ説明会は4月7日(木)から15日(金)まで
行う。

ステップ2: 指導教員の希望申請書を教務Gに提出

- ・第1希望から第5希望(後期課程は第3希望)まで
書くこと(調整有り)

- ・申請期間:4月7日(木)~4月18日(月)17時

ステップ3: 4月下旬に決定し次第、結果を通知する

前期の履修登録

前期履修の登録期間←「**うりぼーネット**」

4月4日(月)9時～4月22日(金)17時(時間厳守)

最終登録済み科目一覧表

指導教員の確認をとったメール文書の写しをあわせて、教務グループにメールで提出すること

提出期限:**4月28日(木)17:00まで**

事前登録

第1群、第2群、第3群以外の科目は、担当教員の許可を受け、教務グループに申請

申請期間:**4月4日(月)9時～4月22日(金)17時**

(履修登録と同じ)

※GMAP in Management(SESAMi)授業科目の履修については、別途通知する。

履修取消し

- 履修登録後、途中で履修を中止したい場合
- 履修取消期間
[前期]4月25日(月)～5月1日(日)
- 履修取消方法 「うりぼーネット」
- 取り消した科目は、その学期中に再履修できない。(『履修要綱』3頁)

大学院での学び方についての参考文献

- 規則と手続き

- 『2022年度学生便覧』 31-86頁、179-241頁
『2020年度学生便覧』 31-87頁、187-249頁

- PhDコースの設計、学び方について(規則、手続の意図も分かる)

- 『2022年度学生便覧』 243-265頁
『2020年度学生便覧』 253-272頁

- 科目の内容と履修計画の立て方

- 『履修要綱』(特に、履修計画の立て方は7-19頁)

- 研究指導教員とよく相談すること